

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
B-141	B-210	20-408	京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座 鶴身孝介 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター 松下幸生
題名 (原題/訳)			
Investigation of brain functional connectivity to assess cognitive control over cue - processing in Alcohol Use Disorder アルコール使用障害における手がかり刺激処理の認知制御を評価するための脳機能結合の検討			
執筆者			
Strosche A, Zhang X, Kirsch M, Hermann D, Ende G, Kiefer F, Vollstädt - Klein S			
掲載誌			
Addict Biol. 2020 Jan 6:e12863. doi: 10.1111/adb.12863. Online ahead of print.			
キーワード			PMID
アルコール使用障害、渴望、手がかり刺激への反応、fMRI、機能的結合、心理生理相互作用			31908107
要 旨			
<p>目的：アルコール使用障害は、報酬処理と認知制御の基盤となる神経ネットワーク間の機能的結合の障害と関連している。アルコール使用者の線条体、島皮質、前頭前皮質間の安静時機能的結合の異常についてのエビデンスは存在するが、手がかり刺激提示時のものは存在しない。本研究では、アルコール消費者の様々なサブグループを対象に手がかり刺激課題中の機能的結合の変化を調査した。</p> <p>方法：96名の参加者（軽度から重度の社会的飲酒者、飲酒中の依存症患者から断酒中の依存症患者）を対象とした。機能的磁気共鳴画像法による手がかり刺激パラダイムを用いて、アルコール関連刺激と中性刺激を提示した。心理生理相互作用解析をおこなった。</p> <p>結果：(a)断酒中のアルコール依存症患者は、飲酒中のアルコール依存症患者と比較して、アルコール関連刺激の提示時に中性刺激と比較して、腹側線条体と前部島皮質、前帯状皮質、背外側前頭前皮質との間の機能的結合の増加を示した。</p> <p>(b)主観的渴望は、後島皮質と内側眼窩前頭前野との間の機能的結合の変化と正の相関を示し、腹側線条体と前帯状皮質、背外側前頭前野、外側眼窩前頭前野との間の機能的結合の変化と負の相関を示した。</p> <p>(c)アルコール使用の強迫性は、背外側前頭前野と腹側線条体、前部島皮質、後部島皮質との間の機能的結合の変化と正の相関を示した。</p> <p>結論： この結果は、断酒中のアルコール依存症患者において、手がかり刺激処理に対する認知的制御が増加し、高レベルの手がかり誘発性渴望と強迫性使用を代償していることを示唆する。</p>			